

IV

第一期区民会議としての全体的なまとめ

最後に、第一期区民会議の活動を終えて、まちづくりや区政全般に対する思いや今後の区民会議に対する提案などをまとめます。

1. 区民の皆さんに望むこと

私たちを含む区民は、自分たちで出来ることは、自分たちで行う、協力して行う、人任せにしないで自分たちで100万都市・政令指定都市を作るという気持ちを持って、これからの中央区のまちづくりを行っていきたいと考えます。

そのときに大事なこととして、まちづくりを楽しむことがあります。誰もが楽しいまちに住みたいはず、そして、そんな夢を語り合うことは楽しいはずです。また、そのためにアクションしてみることもきっと楽しいはずです。自分の時間を少しだけそんなことに使ってみませんか。

2. 区政（市政）に望むこと

行政と市民の協働は情報の共有が前提です。同じ情報を持ってはじめて、問題意識も共通のものとなり、市民も責任ある意見を述べることができます。市民の言いつばなしの意見を“良いとこ取り”するのではなく、役割を分担しながら、まちづくりを進めるためにも積極的な情報開示をお願いしたいと思います。

また、区役所は直接市民とふれあう行政の窓口です。区役所職員は市民参加のまちづくりを進める最前線です。区民会議の場なども活用して、区民とざっくばらんに意見を交換できるよう、日頃からもっと気軽な交流を望みます。

なお、区民がこうしたい、こうしてほしいと感じていることが、かつての同僚エリアである単独行政体であったときのほうが迅速だったとの声が聞かれると非常に残念です。すぐには難しくとも、今回の私たちの提案のようなまちづくりを区民との協働で実現していくために、予算請求なども含め、市から区への権限の移譲について検討して頂くたいと考えます。

3. 区民会議に望むこと（第一期の反省等も踏まえて）

（1）区民会議の活動について

「区民会議は提案だけで行動はしなくても良い」という声も聞かれましたが、実際に行動してみると委員の間の結束も強まり、チームワークも生まれました。また、行動を通じてコミュニケーションの重要性も実感できました。区民会議の役割は“情報を知らせ

ること（コミュニケーション）”、“人と人のつながりを広げ強めること（ネットワーク）”だと思います。

ただし、プランニングは「区民会議」、実施は「コミュニティ会議」という役割分担について、「コミュニティ会議推進協議会」の事業としてはいくつか実施されたものの、一般の区民には、その関連が見えにくかった側面があります。区民会議の機能はできるだけ区民や団体の連携、そのための企画などに重点を置き、実施主体であるコミュニティ会議推進協議会などとの密接な連携に努めることが重要だと感じました。このことは、区民会議の構成メンバーとなった各団体からの代表者も留意することが必要でしょう。

なお、第一期の活動の成果にとらわれる必要はまったくありませんが、区民アンケートの結果など、今後のまちづくりのために参考になる資料もまとめることができたように思います。必要に応じて是非有効活用して頂きたいと考えます。特に、そのアンケート調査の結果を見ても、大変残念なことに区民会議の存在が区民にはほとんど知られていません。第一期の反省点の一つでもあります。あらゆる機会を利用して、区民会議のPRを積極的に行う必要があると考えています。

中央区には、さいたま新都心の新しいイメージと蔵づくりの街に代表される歴史的遺産があります。これは他区にはない特色です。この地の利、コンセプトを生かし、新しいものと古いものを調和させたまちづくりを望みます。そのためには、区民会議が多様な区民の意見を集めながら、区民と行政、あるいは区民相互の協働のまちづくりの中に反映していく努力が必要です。区民会議がオピニオンリーダーとして、中央区のまちづくりを先導する役割を担うことを期待しています。

（２）区民会議のあり方（枠組み、進め方等）について

区民会議の枠組みや進め方については、各メンバーから個別に、以下のような意見が出されました。すぐに改善できることと簡単には変更できないことがあると認識しています。今後の区民会議の運営において、参考にして頂きたいと考えます。

- ・ 全体会と部会が交互に月1回程度、幹事の場合は全体会の前に幹事会1回程度。それぞれ約2時間の会議だったが、これでは間に合わないこともあった。会議前に意見を紙に書いて集めるような工夫があっても良い。
- ・ 行政との連携をどのようにとっていくかが課題である。会議以外にも多くの交流が持てると一体感が湧いてくると思う。例えば、「まちの種（区民会議便り）」の作成には区民会議委員がより積極的に参加することが必要だろう（“広報部会”を設けて実際の作業を行っている区もある）。
- ・ 大きな市となって、行政の各部局間の連携が必ずしも機能的でないように思われる。区民の意見を聞きたいということで各部局から「都市計画」や「合併についての意見聴取」、また「みどりのまちづくり」等々も会議に持ち込まれ、委員の負担は大きいものと感じた。できるだけ自由に展望や夢を語れるものとしてほしい。

- ・ 現在の委員構成を改めて、公募委員の枠を増やすこと。可能であれば、半数程度を公募委員としてほしい。各種団体推薦の委員は他の公職を兼ね、多忙なため会議（部会）への出席率が低くなる傾向があり、選任された趣旨が生かされない。また、区民と行政との架け橋という役割を果たす上で、選出母体の立場に拘束されず、自由に発言できる公募委員の役割は大きい。
- ・ 現在公募委員の方が 5 名というのは、やはり少ないと思う。10 名くらいでも良いのでは。各種団体推薦の委員さんは少し年齢が高いので、委員の年代別バランスを考えて構成し、もう少し若い人たちの参加があっても良い。ただ、自分の例をあげると、未成年の子どもを持つ親としては、夜の 7 時からの会議は時間的に難しい。結局、夜の全体会は欠席することになり、きちんと出席している方には大変申し訳なかった。そんなことを考えると、子育て中の主婦が委員になるのは難しいのか。
- ・ 会議には委員が責任を持ってそろい、意見交換を活発にすることが最重要と考える。そのためには、ボランティアとしての位置づけではなく、委員の会議出席は仕事とみなすという考え方も必要ではないか。すなわち、交通費ではなく相当する賃金を支給することも検討願いたい。
- ・ 今期の区民会議の予算については、その作成の多くを区（事務局）に委ね、事後に承認するという形を採った。その結果、予算の実施段階で当該行事の経費不足を託つことになった。この点を是正するため、区当局は予算の弾力的運営に配慮してほしい。

4. 各委員からの一言（感想、今後の抱負等）

第一期中央区区民会議の各委員の区民会議を終えた感想や今後のまちづくりに対する抱負などを以下にまとめます。

第一期区民会議の 1 年半余り、皆様と共に会議に参加し一区民として住みよい街にすることへの関心が深まりました。

区民会議に望むことの意見を提出した時に、環境・緑の保全と歴史的遺産を守ろうという想いで「みなまち部会」に入会しました。是非緑についての検討を続けていただきたいと思っております。

中央区は芸術・文化の高い街と言われております。区のサロンコンサートは中央区が最初に始めたお手本です。明るく楽しい文化の面にも目を向けて将来像をつくっていただければと思っております。

最後に本町通りの歩行者の歩道がとても歩きやすくなりました。区役所入り口の交差点付近の段差がなくなったことも顕著に感じております。少しの予算でできることは、区長の判断でできるとおっしゃった区長様の言葉が頭に残っております。2 期目の方々のご活躍を期待して一言述べさせていただきました。

江戸時代の市場まちとして大きく栄えた歴史ある旧与野地区と新都心の新しい区域、そして、当然のことながら転入された方たちと、諸々の新旧のコミュニケーションをいかに保ち、どう活かすか。また、福祉活動、コミュニケーション活動など、市民参画、協働の事業を具体的にどう行うか。そして又、区民の希望、要望の代弁者でもありたいと意気込んでスタートしたのもの、たいしてお役にも立たなかったように思います。

ただ、区民会議の22人が常に1つの目標「魅力ある中央区のまちづくり 人づくり」を心にとめ置いて、議論し、検討し、行動して来たことは事実です。今後も区民会議がより充実し、区民と行政との係りがピンポンゲームのごとく、楽しく行われると良いのでは、と思います。

手探りで始まった会議でした。「さいたま市」という新しい枠組みのまちの中で、市民の一人である自分が、どんな事でまちづくりに関与できるのか？期待と不安が入り混じっていました。

PR不足もありました。今までの価値観ややり方では、今までどおりの結果しか得られないことがわかりました。

新しい気づきもありました。

新しい出会いもありました。

ここでの経験を地域での活動に活かしていければ、と考えています。

2年弱の期間でしたが、お世話になった皆様に感謝申し上げます。

三市が合併し、政令指定都市となって区としての新しい取組みの中で、どのようなことを行うのか、私には荷が重過ぎるのではないかなと思いながら、参加させて頂きました。勉強させて頂く良いチャンスと思い、毎回、皆様のご意見を聞かせて頂き、特に公募委員の方たちはご自分の意見をしっかりと持ち、堂々と発言されるので、いつも感心するばかりでした。私は福祉のボランティア活動については多くの自分なりの意見は出せますが、広く全体を見ての考えは今まであまり考えたことはありませんでした。この会議に参加させて頂き、これからは自分だけではなく、皆が住みやすい街作りのために少しでも考えられるよう努力するつもりです。良い機会を与えて頂きまして感謝しております。

参加させて頂き、改めて中央区を見つめることができました。中央区の良さを見出し、暮らしやすい地域社会を形成するための話し合いができ、また、私たちの部会は地元生まれの人が多かったので大変勉強になり、有意義な期間を過ごすことができました。

新都心を中心に住みよい活力のある緑豊かな模範地区になるよう、期待致します。これからもコミュニティ活動等、何らかの形でお手伝いしていきたいと思っております。

よい機会を与えて下さいましてありがとうございました。

さいたま市・中央区は、「地域資源」が豊富であることを改めて思いました。神社仏閣などの歴史的資源のほか、いわゆるハコモノの立派な「物的資源」も多く存在します。また、経験豊富で熱意のある人材という「人的資源」も豊富であるように思いました。（ただし、現状ではこれらの資源をうまく活かしてはいるように思いません。）これからの地域社会の活性化、或いは「区民会議」の目指す方向性も、この「物的資源」、「人的資源」をどう有効に活用するか、にかかってくるのではないのでしょうか。特に、中高年という経験豊富な地域の「人的資源」をうまく活用することが、鍵になるのではないかと思います。また、これからはますます行政と市民の協働の時代に入っていきますが、「区民会議」には、本当の意味で、行政と市民が一体となって活動するモデルになって行って欲しいと思います。

「区民会議・第一期生」として、試行錯誤を重ねてきましたが、今後の礎になることができたのであれば、幸いであると思っています。いろいろな立場・経験の方々と知り合うことが出来ましたし、地域社会での活動の有り方を考える意味でも、非常に有意義で良い経験をさせて頂きました。誠に有難うございました。

「みなまち部会」は女性メンバーが多かったせいか、また偶然ながら与野に半世紀以上居住している人たちがほとんどでしたので、毎回昔と比較しながら楽しく忌憚のない意見が出て、脱線しながらもまとまりのある楽しい部会でした。

与野に一駅だけの頃、通勤・通学で駅に降り立ったとき、“空気が違う”息を大きく吸い込み、しみじみと与野に住んで良かったと感じた頃が懐かしいこの頃ですが、その頃の一つで良い、「緑豊かな、温かな人情と憩いの空間のあるまち」に特に中央を流れる霧敷川・鴻沼川の「水辺に似合う草木や花」を区民の皆さんの協力で育ててみてはいかがでしょうか。徐々に緑が消えていく中で、住民参加でできること、町会単位でも良い、道路沿いに、道端にアジサイを挿し木したり、コスモスの種を蒔いたり、ちょっとした人の心遣いがまちを明るくするのではと感じました。

第一期生として、自分の住んでいるまちを改めて見直し考える場と素晴らしい方たちに出会えたことに感謝します。

区民会議委員としての2年あまりは、とても楽しく充実したものでありました。全体会議やタウンウォッチングなどを通し、自分が10年近く住んでいた中央区について知らないことが多すぎることに愕然としましたが、自分達の住んでいるまちに誇りと愛着を持っている、そんな他の委員の皆さんに刺激を受けとても勉強をさせていただいた日々でした。

これからもこの経験を活かし、「まちのサポーター」として中央区のまちづくりに関わっていきたいと思います。

区の予算の枠組み中で区長の自由裁量の部分（大区役所制か小区役所制にするのかももう一度議論してもらいたい）がとても少なく、これでは区民会議で出された要望等を具現化することは難しく、出席メンバーの意欲の低下にもなりかねない。

区民会議の予算編成の場に委員の意見を取り入れる機会が少なく、実施段階での行事の経費配分がうまくいかなくなる結果に終わったことは残念であった。委員の参加はあくまでもボランティアという性格が打ち出されているが、出席した場合の若干の費用弁償を考えても良かったのではないかと思う。委員会構成について各種団体推薦の委員は他の公職も兼務のため、会議の出席率が低く、選任された役割を果たせているのか疑問に思う面もあった。選出母体の立場に拘束されず自由に発言できる公募委員の比率を高めた方が良い。

まちづくりについては今後も関心を持ちたいと思い、OB会の結成を希望したい。いずれにしても、いろいろな人と知り合い、つながりのできたことは大きな人の財産を増やすことができ、感謝申し上げます。

区民会議で何をなすべきか、どのような方法で区民の意見を反映するのか、残念ながら手探り状態の試行錯誤の1年だった。2年間の体験のなかで、迷いながらも区民会議の方向性について基礎固めができたのではないかと思う。

委員の皆さんと「まちづくり」の夢が話し合えて、本当に楽しい2年間だった。

区民会議の委員に推薦されて軽く引き受け、後に大慌てでした。冷静に考えてみれば、中央区民の代表なので。私でいいのかと思いつつ、任期が終了になりました。タウンウォッチングや部会のなかで、いろんなことを見たり、聞いたりでき、とても勉強になりました。「まちづくり」には終わりがないので、第一期区民会議の提案したことが、すぐ結果になって出るわけではないが、後に少しでも自分たちの提案したことが活かさればうれしく思います。

市政の柱として区民会議の誕生、そして団体の代表として会議に参加させていただきましたが、当初は混迷の連続で、それに輪をかけて、所属団体の運営と重複して区民会議への度々の欠席でしたが、区民会議委員のみなさんの活発なる発言によって目を覚まさせていただきました。これからも区民の1人として地域で頑張りたいと思います。最後にコミュニティ会議推進協議会を通じて各種地域組織とネットワークすることにより一層の充実と協働が大事なことと思います。

区民会議にはコミュニティ会議の代表として参加させて頂きましたが、会議ではあくまで個人の資格で意見を述べさせて頂きました。この会議は、市民の代表とか団体の代表としてのそれぞれの利益を目的にしたものではなく、一市民としての常識と中央区のより良い発展を願うものが意見を出し合うという認識の上にあるものと理解しています。

にぎわい部会は7名中4名が公募委員ということもあってか、自主的な意見、前向きな姿勢が顕著だったように感じる。特に親子TWは積極的に取組み、役割分担もこなし、達成感を感じた。ただし、まだまだ足りなかったようにも思う。こうなってほしいと意見を言うだけでなく、実際に行動したくなってしまいうので、そのギャップを埋めるのが難しかった。しかし、これからもまちづくりに関わっていきたいという気持ちがあるので、OB会などができたら是非参加したい！この会議でいろいろな方と知り合いになり、人のつながりができたことは大きな財産でした。

区民会議に参加させていただき有難うございました。三市が合併し、さいたま市としてスタートした中、この中央区は旧与野市の区域をそのまま受け継ぐということで、いままでのよい面を残しつつ、新しい取組みも必要だと感じました。そのひとつが区民会議だと思います。各種団体の代表者、公募委員の方など幅広い層の方々の意見を聞くことが出来て大変勉強になりました。第一期の区民会議では、何をすることも手探りで進めているような感じでしたが、やっとかたちと言おうか方向性が見えてきたところだと思います。今後は区民参加のまちづくりをどのように具体的に提案していけるか、第二期の区民会議に期待するとともに、一区民として何かお手伝いできればと思います。

